

令和3年度 学校図書館活用実践報告

新潟市立白根第一中学校

教諭 大原 宏美

司書 雑賀 里香

生徒数	313名
学級数	普通学級10 特別支援学級2
蔵書数	13,861冊 (R3.12末現在)
貸出冊数	2,585冊 一人平均8.3冊 (R3.12末現在)

1 目標

積極的に読書に取り組む生徒を育む
図書館資料を活用して情報収集能力を高める

2 学習センターとしての取り組み

(1) 授業での活用実践

①レポートのテーマ設定・レポートの資料としての図書の活用と図書館利用

2年生国語「モアイは語る」での意見文作成

今後の地球の未来のために自分ができることを根拠をもって述べさせるというねらい達成のため、自分の意見の根拠となるデータや事例を図書やインターネットで収集させた。収集の前に、テーマを決める材料、調べる手助けとなるようにパスファインダーを活用した。パスファインダーがあることによって、テーマが考えやすかったようで、資料を探しながらテーマを決めるのではなく、テーマを決め、目的をもって情報を収集するという活動ができた。また、インターネットから信頼性のある情報を得ようとしていた。

1つの学級ではパスファインダーを提示すると、手軽さからか、インターネットで検索する生徒が多かった。もう1つの学級では、パスファインダーを提示した後、図書の利点を述べてから活動に入ると、図書を利用する生徒の方が多かった。図書の利点とは、情報量や説明が中学生に適しているものであるということ、信ぴょう性があるということ、である。

自分の生活と関連付けながら、地球の未来について考え、明確なデータを用いながら意見文を完成させることができた。また、情報収集したことにより、新たな知識を身につけていた。



②教材研究・生徒に提示する資料の引用

3年生社会「人権と共生社会」

「真の平等」とは何かを考えるため、いくつかの事例を挙げて、いろいろな角度から考えた意見をもてるようにし、話し合わせるといった活動を行った。1つの事例を『これからの「正義」の話を生いまを生き延びるための哲学』という図書から引用し、生徒に提示した。活動に適した内容の本であったため、答えのない問いを自分の問題として捉え、一生懸命に考えている様子、自分なりの答えを導きだそうとする姿が見られた。

司書と連携し、活動に適した内容の資料を生徒に提示することができた。図書は担当教諭の教材研究としても活用された。

(2) 国語教科書紹介図書の購入

国語教科書に紹介されている図書の購入を行った。図書にはラベルを貼ってわかりやすく表示した。また、紹介ポスターを展示し、授業に関連した図書を紹介した。

(3) 書架サインの見直し

書架サインの見直しを行い、授業に関連するテーマについてはより細分化したサインを表示した。生徒はサインを活用して本を探していた。

3 情報センターとしての取り組み

生徒の主体的な情報収集・選択・活用能力育成のため、調べ学習の道しるべや興味をもつきっかけとなるように工夫をした。

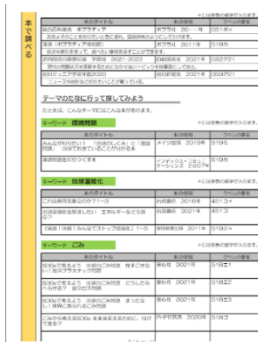
(1) 「一中図書館を使いこなそう」リーフレットの作成（教職員版・生徒版）

教職員には年度始まるの時期に、生徒にはオリエンテーション時に配付し、図書館活用を促した。分類番号の説明を親しみやすいデザインを用いて作成した。



(2) パスファインダーの提供

事前に授業の構想やねらいなどを司書に相談し、適した資料をピックアップしたパスファインダーを作成してもらった。生徒に iPad で送信し、見方や活用方法を説明した。



(3) 図書の充実

調べ学習に対応できるようにさまざまな辞典や事典、データブックなどを揃えた。

(4) 教材の展示

社会科の教諭と連携し、図書室前廊下に火縄銃の模型（レプリカ）の展示を行った。模型の解説、関連図書、関連写真なども一緒に展示し、生徒の興味関心を引くようにした。



4 読書センターとしての取り組み

(1) 図書館前廊下の展示スペースの活用

- ・季節に合わせた展示・各月に縁のある偉人の紹介・毎月の企画展示。
- ・司書おすすめの本を返却BOX近くに展示し、貸出を促した。



(2) 秋の読書推奨企画

- ・一中生、先生方の押し本
- ・本のおみくじ
- ・しおりのプレゼント



(3) 広報図書委員の七夕企画

- ・図書室前廊下に笹を飾り、短冊に願い事・本のリクエストを書いて飾れるようにした。
- ・図書室七夕の雰囲気には飾り付けした。



(4) その他

- ・希望者による My 貸出カードつきしおりの作成
- ・生徒が喜んで活動に取り組み、貸出がスムーズに行われるようになった。
- ・読んでビンゴ

読んだ本をビンゴ表に書き込み、ビンゴになると貸出冊数が増える券を配付した。読書量が増加した。

- ・ポプラディアで遊ぼう

今年度購入したポプラディアを使った遊びを通してポプラディアに親しんだ。

5 白根第一中学校区の小中連携

(1) 学校司書・図書館主任の交流

- ・昨年度1回（司書のみ）、今年度1回の交流会を実施
- ・図書だよりを通じた情報交換

(2) 風資料情報の共有

白根中学校区・味方中学校区の図書館に所蔵している風に関する資料をリストアップし、活用できるようにした。

(3) 読書郵便の交換

白根小・小林小・白根第一中の三校図書委員会の児童生徒がおすすめの本を紹介し合った。



(4) 小学校6年生から中学校への橋渡し（予定）

読書郵便で紹介された本、白根小・小林小でおすすめの本として読書を推奨されている本、人気のある本などが中学校にもあるということを伝えるお便りを作成する予定。

6 成果と課題

(1) 成果

- ・教科担当と司書とが連携して授業の構想や実践を行うことができた。適切な資料の提示ができたため、学習の充実度が上がった。
- ・調べ学習でパスファインダーを活用したことにより、主体的な活動を促すことができた。大量の情報からやみくもに情報を選ぶのではなく、自分のテーマに適した資料は何か、信頼できる情報は何かを考えて探すこともできた。
- ・図書イベントによって貸出冊数が増加した。特に読書ビンゴは、小学校から読書の習慣がついている1年生に人気で、楽しんで取り組んでいた。読書の習慣が維持され、年間貸出冊数の増加につながったと考えられる。

(2) 課題

- ・ipadと図書の両方の利点や特徴を説明し、両方を生かしながら活用すること。
- ・授業での図書館活用を行い、広がりのある学びにつなげていくこと。
- ・課題に対する情報を適切に選び、情報を正しく利用するための指導をしていくこと。
- ・小学校で身につけた読書習慣を継続させる工夫をし、読書量を増やすこと。